



*****文化発表会が行われました*****

10 月 25 日(土)、本校体育館で文化発表会が行われました。第 1 部では海外派遣報告で 3 組の H さんが夏にマレーシアで見学してきた成果を発表しました。次にビブリオバトルでは 1 組の S さんが江戸川乱歩の小説「芋虫」についてスピーチしました。奉仕部は楽しいクイズと手話ソングで会場を盛り上げました。

そしていよいよ第 2 部、合唱の発表です。7 年生は初々しく、8 年生はどのクラスも感情をこめて歌っていました。昼食・休憩をはさんでいよいよ 9 年生の出番です。緊張の面持ちで舞台上上がった皆さんは、今まで聴いた中で一番素敵なハーモニーでした。指揮者も伴奏者も全力で頑張りました。どのクラスも甲乙つけがたい素晴らしい歌声でした。

合唱が終わると緊張が一気に解けて、リラックスモードになりました。総合科学部の研究発表ではお祭りやコンサートで見られる発光物質を作ってみせてくれました。赤や青の美しい光に会場が湧きました。ダンス部は後輩たちの演技は可愛く、それに続く 9 年生の熟練の踊りはさすがでした。フィナーレを飾るのは吹奏楽部の演奏です。部員も増えて、迫力のある演奏でした。最後に先生たちのサプライズ・コーラスもあって、会場は最高潮に達しましたが、皆さんの節度ある鑑賞行動は良かったと思います。

最後に結果の発表です。金賞は 2 組、指揮者賞は 2 組の H さんでした。おめでとうございます。



4 組



3 組



1 組



2 組

*****文化発表会についての作文*****

「文化発表会を終えて」

9年1組 Aさん

今年の文化発表会は、私にとって中学校生活の集大成とも言える大きなイベントでした。入学してからの三年間、緊張の中で成長を感じる機会は数多くありましたが、この日ほど「仲間と一緒にひとつの目標を成し遂げる喜び」を強く味わったことはありませんでした。練習の段階では、練習が進むにつれて、思うように声が出なかったり、音程や曲のテンポに対して演奏が走ってしまったりすることに悔しさがこみ上げました。

特に、本番前最後の練習で自分達の課題を無くすために練習を工夫し、みんなで良い歌を響かせようと一致団結した事が心に残っています。みんなで一致団結し、協力し合う事が、緊張と疲れの中でも背中を押してくれました。本番当日、観客席からの拍手と友達の顔、そしてこれまでの練習が一つに繋がったような感覚を覚えました。テンポが走ってしまう場面もあったものの、クラス全員の力が合わさって乗り越えられたことが嬉しかったです。歌い終えた後に味わった達成感と仲間と分かち合った笑顔は、これまでで最も鮮やかな思い出となりました。

この体験を通して、私は「協力すること」「一致団結し取り組むこと」の大切さに気づきました。一人が頑張っても、全体のクオリティは上がりません。逆に、みんなが少しずつ力を出し合えば、想像以上の結果が生まれるのだと実感しました。中学校生活最後の文化発表会をこのような形で締めくくれたことを誇りに思いました。とても楽しめた文化発表会になりました。

「統率と苦難」

9年4組 Hさん

私にとって、今年の文化発表会はとても特別なものになりました。七年生の時以来、二回目の実行委員に選ばれましたが、当日までの約一ヶ月間は険しい道のりでした。最初の実行委員会は九月上旬にありましたが、その時期は修学旅行に中間考査と他の事に勤しんでいました。一段落ついてから本格的に実行委員会が動き、週一回の音楽の授業でも合唱の練習が進んできました。十月に入ると放課後練習が始まり、その内容を考えたり、練習の指示などをしたりしました。しかし、最初のうちはキーボードやCDラジカセの準備に手こずり、特別教室から移動してきてドタバタで練習が遅れることがしばしばありました。練習を始めようとしても全員が教室に居なかったり、パートごとの練習でしゃべって実のある練習にならなかったりしました。それでも、実行委員でどのように練習すればよいかを話し合って、練習方法を工夫しました。クラスで目標を決めた時には「美声で金賞を獲りたい」という気持ちが全員にありました。時間が経ち本番が近づくにつれ、クラスの雰囲気は良くなっていきました。ところが、受験の話題が出てくる時期でもあり、最後の練習に身が入らない人が多くいました。このままでは良くないと、担任からの話があり、体育館で歌った合唱の出来は良かったです。個人としては、クラスをまとめる実行委員として自分が言わなければいけなかったと後悔しています。

迎えた当日、今までで一番の合唱をしたと思っています。結果としては金賞に至ることはありませんでしたが、あの日までもがいた濃密な一ヶ月が無駄だった訳ではありません。リーダーシップを取り、クラスの前に立つ過酷さ、そしてやり切った充実感と得た経験値は、この先の私に生きていくと思います。